

構造を記して、それと構造の似たりと云ふ朝鮮の三角形小船、アイヌの漁船、さてはアムールの箱船の形式構造を論じ、滿洲の船形棺に及び結論に於て古代の熊野諸手船の構造を推定して、これが出雲派民族に使用されしもの、其の起源はアムールの箱船に發し朝鮮の三角形小船と連絡あり、之より古代日鮮關係を窺ふべしとせり。卷末の圖版及挿圖はこの本文と相對して讀者に興味を興ふる多し。

此の熊野諸手船の起源に關する研究、殊に第二章の語源の解釋の如きは學者の同意を得べきや否や未だ知る可からず、猶研究の餘地あるが如きも、諸手船が古式の構造を繼承せるは夫道湖中海に今猶行はる、一種の獨木舟と共に此の記述に於て明に認むべく七俗考古學上に注意すべき論文と云ふべし。(價一、〇〇)〔梅原〕

### ● 雜 誌

● 「座」の起源と其語原

文學博士 三浦 周行

(國民經濟雜誌第廿三卷第一號所載)

「座」に就ての研究には、先きに福田博士、柴謙太郎學士あり、頃者、又三浦博士は經濟論叢(第三卷第三・六號、第四卷第六號)に於て「座」の研究」を又中山太郎氏「座源流考」(歴史地理第廿九卷第三・四號)を發表せられたりしが、更に又博士は「座」の起源及其語原に就て其研究を示されたり、最初に、「座」の意義に關する諸説」

として福田博士、柴學士、中山氏の説を掲げ、次に「諸説に對する批評」として福田博士の座や座がクラ又はイチクラの漢譯ならんといふ第二の假定説を排し、座の制度の起源を平安朝に置かんとする説に對して、關市令を引きて其奈良朝にも存せりとなし、柴學士の座の語原に關する記述は尙明晰を缺くとして、氏が商工業の座の起源を専ら社寺關係のものに限らんとするの餘り、座の語原を座席の意味の外に社寺關係の語原を有すと思惟されしに非るか、又氏は商工業者と權門勢力との關係を室町時代に至りて始めて生せりと言へるは材料に捉はれし嫌なきにしも非ずとて、商工業者と社寺との關係鎌倉時代に遡ると同時に、他の本所との同一關係も亦推知すべしとし、中山氏の説は批判の範圍外なりとて言及せず。「座」の起源に關する管見」に於て、座の由來は極めて古く品部の間にも其萌芽あれども、平安時代の社會事情は座の如きもの、存在し得べき状態にあり、貞觀六年九月四日太政官符に、市人諸司諸家に仕ふる事を禁せるは此種の從屬關係の裏面に利益の交換あるべきを示せるなり、壬生官務古文書に收むる永承三年八月七日の宣旨は京都の織工にして織部司の管轄を受け公役を收めつゝある者が、他の私機を禁じ織物業の獨占を得たるなり、又室町時代の民間現象たる土倉酒屋等の事實が平安朝末期に存せし事等を擧げて座の事實が少くとも平安朝期に存在せるを認め、「座」の

語原に關する管見」に於て、座の起源は古きにせよ、座なる名稱は左迄古きも思はれず、商工業の座の名稱の如きも今日までは鎌倉時代の末期に現はれたるを初見とすれども、しかも其事實は此頃に始りしに非ず、座は民間の稱呼なれば如何なる場合に座の語を用ひしやを知る事は當面の困難なり、されば普通の座席の意味以外に用ひられし例を擧げんに建武年間記に載せたる二條河原の落書「一座ソロハヌエ連歌」の座も、奥州後三年記の剛臆の座も法然の信ノ座、行ノ座も悉く「組」と言ふ意味に外ならず、春日神社文書正應五年十一月の興福寺木工兼社工の解狀に見ゆる座の記事も興福寺大乘院組の木工東大寺組の木工と言ふに異ならずして要するに二以上同一の事業に従ふ者の組合と言ふ意なり、されば組の意味に於ける座は必ずしも社寺に關係あるものに限れるに非ず假令ひ社寺に關係ありとするも敢て神聖なる座席を意味するものに非ずと言へり。(中村)

## 彙報

### ●京都帝國大學卒業證書授與式及

### 史學科卒業生

京都帝國大學に於ては去七月十二日卒業證書授與式を舉行し各科

### ●モリソン文庫購入

支那政府の政治顧問モリソン氏の藏書全部數萬卷は今回、男爵岩崎小彌太氏三十五萬圓を以て買受くることとなり、石田文學士の手によりて書籍目錄の調査を終り、八月三十日其受渡しをなしたりと云ふ。モリソン文庫は多年の蒐集に係り政治、經濟、法律、産業、歴史地理、動植物に至るまで支那に關係あるものを悉く網羅しありと云ふ。

### ●讀史會

例會 六月廿五日午後六時より學生集會場に於て卒業生の豫談を兼ねて開く、來會者三浦、喜田阿博士、西田講師、清原、魚造、中村三學士、神浦、松野、下川、辰馬、牧、富森、古田、桑原、鈴木、梅原の諸君なり、席上左の講演ありて十時半散會す。